



新春特別付録！

おじさん、おばさんのための、

あてにならない

「新・国語辞典」シリーズ

バージョン3



昨年の政権交代により、従来の日本語の意味や解釈が大幅に変更になりました。また、現代の世相を反映して新しい言葉が続々と生まれ、一部に社会的混乱を生じています。大好評につき、五年ぶりの新春特別付録として本誌読者の皆様だけに、ひと足早く変更の一部をご紹介します。くれぐれも時代にとり残されないように。

新・国語辞典編集室

『現代用語の不要知識』の巻

【天降り】

古事記にもあるとおり、そもそもわが国は「天孫降臨」の神国であり、偉い人が上から降りてきてどこが悪い！という高級官僚たちの開き直りが根底にあると説く評論家もいる。

【IPS細胞】

京都大学・山中教授が米国留学中、研究所内で下痢にな

った時、E（わたし）が下痢P（ピー）になったのでSOS（助けて）！ とトイレから叫んだ時ひらめいたのがこの細胞発見といわれている。

【上書き・保存】

昔の異性関係を女は「上書き」し、男はファイル「保存」するというのが定説であったが、最近は両者とも「保存」傾向が強く離婚率の増加との相関関係が学界で話題になっている。

【うつルンです】

フジフィルム社が新型インフルエンザの流行を見越して「マスク製造事業部」を新設したところ、まったく売れなかつたらしい。識者によれば同社の過去のヒット商品、「使い捨てカメラ」の名称が原因だったらしい。

【エコロジー】

CO2排出量などで自国に都合のいい主張ばかり繰り返すエコ大国のこと。

【思いやり予算】

給料日前に妻から千円だけ借りるさまをいう。

【回転寿司】

注文もせずに長時間居座るお客対策として、椅子を硬くする、お茶は二杯まで、とするなど客の回転を良くすることだけを考える悪徳寿司屋のこと。

【貸しはがし】

おじさんがレンタルビデオ店で借りたDVD等のエッチなシーンだけをコピーして秘蔵する不正行為。一年以上の懲役刑となる。

【キャバ蔵嬢】

今や女子大生の人気就職先となったキャバクラ。ここで老青男子達を翻弄して多額の蓄財をした女性達が、次々に「蔵」を建てているらしい。ちなみに編者は同所に行ったことがない。お願い、誰か連れてってえっ！

【グルメっ】

新規開業の飲食店がマスコミで報道されるとどつと客が押し寄せる。飲食店とテレビ局、雑誌社などが「グルメ（共謀者）」になっているさまをいう。

【携帯食】

登山などの際持参する食糧を「携帯食」というが、最近では食卓で食事をしながら異性と携帯メールにふける若者

が激増していることからこう呼ばれるようになった。「携帯電話」を豚カツと間違えてかぶりついたパープー高校生もいるらしい。

【高校教育無償化】

民主党のおかげで、そのうち社員の給料も「無償化」されると信じているアホな会社社長が多数いることがわかった。

【月経平均株価】

医療よりも株式投資に熱心な産婦人科医には、仕事柄「日経平均株価」よりも解りやすいと評判の株価指標のこと。

【紅白豚合戦】

NHKでは視聴者に飽きられつつある歌合戦をやめて、その年のダイエット成果を競う中年男女のコンテスト番組に模様変えしようという企画が進んでおり、出場者を募っている。

【御文章】

蓮如上人の作になる説法集で、人間の生命のあやうさ、念仏勤行の勧めが綴られたもの。タレントの、はるな愛さんが毎朝唱えているとの未確認情報がある。あしたにはコウガンありて、夕べにはオンナとなりぬ……あわれというもなかなかおろかなり」（白骨の意）。

【裁判員制度】

これまでお母さん一人が検事兼裁判長を務めていたお父さんの悪行審理に、子供たちのほか愛犬などのペットや町内会長も加わることになった。最高刑は「家庭追放」。弁護人も無く、暗黒裁判のおやし世論が沸きおこっている。

【産学連携】

マニュアルがなければ何も出来ない若い夫が、妻のお産に立ち会つにあたり、あらかじめ本やネットなどで予習しておく情けないありさまをいう。

【辞民党議員】

こつそり自由民主党を離れて民主党へ入るタイミングをうかがっている国会議員のこと。

【子宮温暖化】

保温性の優れたハイテク衣類が開発され、女性の子宮温度が高まりつつあるのが出生率低下の原因という説がある。医学界が現在、総力をあげて研究中である。「恥丘温

暖化」も同意語。

【死亡吸引】

腹腔内の脂肪を吸引してまで体重を減らそうという、おぞましい医療が事故を招く事例が増加している。某美容整形クリニックでは看板をこの字に書き変えている。

【謝捕庁】

正式名称は社会保険庁。社会保険のデタラメ運用に対する激しい世論に謝ってばかりいる官庁。不正で逮捕者も出ていることから略称文字が変更された。

【草食動物】

青年男子を食い荒らし、男から男へ飛びまわる最近の若い女子を「猛禽類」と呼ぶのに対し、もはや残り少なくなった草を探して流浪する日本青年男子をさす

【たばこ税】

某大型ホームセンター・家庭園芸品売り場では、タバコ増税にそなえて「葉タバコ」の苗を売り出すことを計画して、当局に大目玉をくらったらしい。

【低速道路】

渋滞する高速道路を避けて風情のある砂利敷きの田舎道をゆっくり走りたいたいという、レトロ願望のドライバー達から料金をとろうという企画がネクスコで秘かに練られている。

【デパートシヨファ】

時間をもて余す高齢者達がもつとも頻繁に出入りする施設の「三家」、「デパート」、「図書館」、「(早朝の)ファミレス」の略語

【電痔加熱(IH)】

日本人の三人に一人は「痔疾」傾向があるとか。血流の病なので患部を加熱することにより軽快する。富士電機では痔治療専用の小型IHを開発中である。

【綴じ込み雑誌】

立ち読みできないように要所を封じたページのある雑誌。最近ハサミ持参で立ち読みする豪の者がいて、コンビニ店長を悩ませている。

【取調べの可視化】

嫉妬深い妻がこっそり、夫の携帯メールを盗み見ること。古人いわく「女房妬くほど亭主はもてず」。

【ナノテクノロジー】「ナノ」メートルとは10億分の1ミリの単位。近頃はナノ単位で作られたハイテク女性化粧品があり、ワイシヤツなどに付着したら除去不能だそう。おじさん方はくれぐれもご用心ください。

【日航危機】キャビン・アテンダント（おじさんには「スッチャー」の方がうれしい）の平均年齢と会社の業績が反比例しており、早急に全員の若返りを図るべきと唱える怪しい経営評論家がいる。

【海苔ピー】タレント、酒井法子被告のニックネーム。「法ピー」が正式ニックネームだが、法をあざ笑う薄っぺらな黒い行為から「海苔ピー」と呼ばれ始めた。海苔業界は激怒している。

【鳩の街】作家・永井荷風先生描く小説に出てくる、むかし東京都墨田区内にあった娼妓をあっせんする店舗街をさすが、現在は宰相夫妻が手をつないで買い食いをする東京都・田園調布一帯をさすといわれている。

【パンチラ】なぜかパン好きの多い奥さん方。店頭をチラツ、と見ただけでおいしいパン屋さんかどうかかわかるというからスゴイっ！

【ピーマンショック】パソコンの相場を見て野菜の「ピーマン」のように体じゆうが青くなったり、赤くなったりする投資家特有の病気をさす。医学用語。

【美容障害】皮膚を引っ張って皺を伸ばし固定するために「アロン」を顔に塗り、ひきつけてしまつて永遠に笑えなくなったおばさんがいるらしい。

【費用対成果】就職にあたり今年卒業するか、留年すべきか迷う大学生の深刻な悩みを主にさす。

【泌尿器】日本青年の無気力に腹をたてた長妻厚生労働大臣の命令で、従来「生殖器」と呼ばれていた男子局部の名称を廃止し「泌尿器」だけに名称統一することが各医療機関等

に通達された。

【ブルー録（レイ）】

丸いテープリール、カセットテープ、CD、DVD、ブルーレイと、録音・録画技術を矢つき早に進化させ、消費者を奴隷化して新商品家電を売りつけようとする悪徳電気業界をさす。

【返済猶予】

勇ましい演説で瞬間的に商工業者のヒーローになったK金融大臣。一方で銀行から「借金を返済されては困る」と懇願される金づる優良企業もあると聞く。世の中いろいろ。

【ホームセンター】

中国製品ばかり安値で売る大規模小売店。経済産業省の指示により来年度から「大型チャイナセンター」と名称変更することになった。

【街の変態】

お正月定番の箏曲「春の海」は宮城道雄作曲として有名。同じく箏曲「水の変態」は超難・名曲としても有名だが、最近のヘンタイは夜昼なく街なかに出没して市民を脅かしている。この結果、市中監視カメラメーカーの業績がV字回復しているらしい。

【ミクシー】

出会いの少ない青年男女がインターネットSNS「ミクシー」を媒介に結婚する事例が増加中。ミクシー社・笠原社長のもとには仲人の依頼が殺到して社長業務に支障をきたしている。同社では「有料媒酌人事業部」を新設してひと儲けしようとする企画中とのこと。

【ミシユラン】

フランス国の某タイヤメーカーが頼みもしないのに日本の飲食店を、と勝手に評価して公刊している。わが日本・プリチストン社では、パリ市内のフレンチ・レストランを「松」「竹」「梅」「並」とランクつけて「ル・モンド」紙上に公表することを同社取締役会で真剣に議論して、イナイ。

【名刺交換】

ビジネスマン必須アイテムの名刺。あとの整理が大変なので、広島市のS製作所・横着もの社長が開発したのは「名刺交換機能つき携帯電話」。「初めまして。こういう

者です。プチユツ」と携帯電話のボタンを押せば、両者の社名、肩書き、連絡先などが瞬時に交換できるスケジュールモノ。エクセルデータ等への移動もカンタン。同社では経費節減の折り、特許申請はしない方針。

【迷惑メール】

毎日パソコンメールに押し寄せる迷惑メールの削除が日課になっているビジネスマンが多い。この手間が日本企業の生産性を5%低下させているという未確認統計がある。しかし、なかには傑作えっちメールを秘かに楽しみにしている不良社員、管理者も少なくない。

【ユニ黒】

赤字企業が続出するなかで、「ユニクロ」だけが大幅連続黒字なので、同社では社名の一部を漢字にすることを検討している。

つづく

(投稿募集中!)